

注) この RCT は日本東洋医学会 EBM 委員会がその質を保証したものではありません

11. 消化管、肝胆膵の疾患

文献

高木俊二. 五苓散および当帰芍薬散の術前服用による胆石症ないし胆嚢ポリープ患者の尿中 6-keto-prostaglandin F1 α 排泄量増加作用について. *和漢医薬学会誌* 1992; 9: 32-9.

1. 目的

胆石症ないし胆嚢ポリープ患者の尿中 6-keto-prostaglandin F1 α 排泄量に対する五苓散および当帰芍薬散の効果の評価

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT)

3. セッティング

1 大学病院

4. 参加者

胆嚢結石症ないし胆嚢ポリープのために胆嚢摘出術を行った患者 29 名 (すべて女性)

5. 介入

Arm 1: ツムラ五苓散エキス顆粒群、6 名

Arm 2: ツムラ当帰芍薬散エキス顆粒群、6 名

Arm 3: ツムラ小柴胡湯エキス顆粒群、6 名

各群エキス顆粒 7.5g を食前に内服、術前の投与期間 5-6 日

Arm 4: コントロール群 (継続的薬物の服用を行わなかった群)、11 名

6. 主なアウトカム評価項目

尿中 PGE1 ならびに 6 ケト PGF1 α 排泄量。

7. 主な結果

尿中 PGE1 排泄量は全経過を通じて各方剤群とコントロール群で有意差を認めなかった。尿中 6 ケト PGF1 α 排泄量は五苓散で術後 1, 5-7 日目に ($P < 0.05$)、当帰芍薬散で術後 1, 3-7 日目に有意に高値を呈した ($P < 0.02-0.001$)。小柴胡湯群はコントロール群と有意差はなかった。また、五苓散と当帰芍薬散群の群間に有意差はなかった。

8. 結論

胆嚢摘出術の術前五苓散ならびに当帰芍薬散投与は、術後の尿中 6 ケト PGF1 α 排泄量を増加させる。

9. 漢方的考察

なし

10. 論文中の安全性評価

記載なし

11. Abstractor のコメント

4 群間での RCT を施行したことは賞賛に価する。臨床的なアウトカムとの関連を評価すると臨床的意義が高まると考えられる。

12. Abstractor and date

小暮敏明 2008.8.8, 2010.6.1, 2011.10.12, 2013.12.31